

【 スポーツ王国北海道の実現について 】

(二) コロナ禍における部活動の影響について

次に、コロナ禍における部活動への影響について伺います。

『令和 2 年度の北海道教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書』を拝見しましたが、各課、合計で、新型コロナウイルス感染症対策に関する、『臨時休業』、『分散登校』、『修学旅行』、『卒業式及び入学式』、『心のケア』、『部活動』などの通達・通知が令和 2 年度だけで 237 件、学校関係者に出ています。

新型コロナウイルス感染症が発生して以来、現在まで感染症対策に向き合い、児童生徒に寄り添い、安心して学べる環境づくりに尽力いただいている学校関係者の努力も承知しております。

私の住む、帯広市内中学校の部活動加入率は概ね 80%前後と聞いています。

部活動ができない状況により、時間を持て余し、カラオケボックスやゲームセンターに行き、お金の貸し借りでトラブルを引き起こすなど問題行動が頻発しているとお聞きします。

大規模校では、学年をまたぐ活動が制限され、異学年交流の場として、唯一『部活動』が存在し、先輩の姿を見て成長する機会の喪失や運動機能が失われることにより、ストレスが発散できず、学校生活における意欲の低下が想像できます。

現在、部活動においては、高体連、高野連、中体連など各種団体が主催する全

道、全国に直結する大会等に出場する部活動に限り、感染症対策を徹底し、時間や人数、活動内容を厳選するとともに、活動場所は自校内に限定してこれ以外は休止することとし、学校長の判断によるとされていますが、全道大会等が無い、文科系の部活動や同好会は長期間活動できない状況になっています。

また、これからシーズンを迎えるスピードスケート、フィギュア、アイスホッケー等の氷上競技も大きく影響を受けております。

2030 冬期オリ・パラ大会招致が実現すれば、まさに現在の中高生が主役になる年代であります。

この問題は、スピードスケートに限らず、アイスホッケー、フィギュア、水泳、剣道、柔道など、学校の施設では活動が難しい種目への影響が大きいと考えます。

先月、8月4日から8日まで苫小牧市で開催された、全国高等学校選抜アイスホッケー大会では、多くの感染者を出したことから、国立感染症研究所の調査が入り、高校生のスポーツ大会における新型コロナウイルス感染症のクラスター発生防止に関する提案が出されたことも承知しています。

北海道の子ども達の体力向上や人間形成という視点からも、部活動は、授業と同等の価値のある活動として捉えることができます。

部活動についての統一的な考え方や感染防止対策などについての方針を早急に示すことが必要と考えます。

道として、コロナ禍における部活動の影響についてどのように認識しているのか、今後の取組について所見を伺いまして、私の、質問を終わります。

(答弁：教育長 倉本博史)

- ・部活動は、教育的意義が高く、また、各種大会やコンクール等は、日頃の練習等の成果を発揮する貴重な機会。
- ・活動内容の厳選や感染リスクの高い活動の休止など、感染防止対策を講じている中、十分な活動ができないことなどによる意欲の低下など様々な影響があるものと認識。
- ・道教委としては、スポーツ関係団体等で構成する連携会議や、部活動顧問を対象とした研修会を通じて、専門家の助言等を得て作成した具体的な対応強化策を改めて周知、感染症対策と部活動の両立を図り、生徒が安心して日々の活動や大会等に参加することができる環境づくり。